

イマジネーション・ライディング

BIKER  
BIKEB

作 かみむら

現代  
Biker  
の  
神話

sample

バイカー、それは

新しい生命だ。いのち

彼を観た者は

まだ、どこにも居ない。

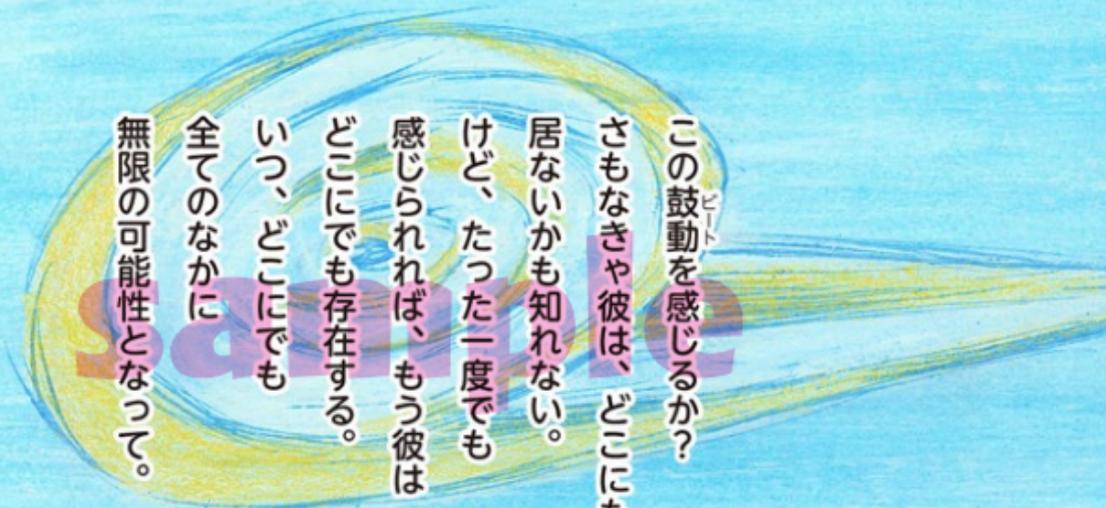
轟く雷鳴・爆音に、

乾いた笑い声たなびかせ、

風巻き輝く疾走は

世界を揺るがせる。

sam



この鼓動ビートを感じるか？

さもないかや彼は、どこにも  
居ないかも知れない。

けど、たった一度でも

感じられれば、もう彼は

どこにでも存在する。

いつ、どこにでも

全てのなかに

無限の可能性となつて。



**sample**



**sample**

**sample**

偉大な創造の息遣いと眼差しの中

まだ宇宙も何も無い視点は無垢の波調。

無限の生命エネルギー「愛」は決意した。

そして全ては、ここからスタートを切る。

突然、極限に圧縮された宇宙シリンダーの

欲求という上死点。

精気と靈気は結婚し、最高の混合気は

全くの静寂の中、ハッと我に帰る。

まさに、愛が手を取り、

キーを鍵穴へと導く。  
VIVID

全ての存在が待ちに待った

「瞬間」が来たんだ。

ああー、信じ合う関係。メカニクス

それは自然な成り行き普遍的な愛の行為。

情熱のコイルは、溜めに溜めた高霊圧歓喜を、

ここぞとばかり一気に解き放つ。

ほと走る多次元の蒼白い閃光に、

たまらず、こらえ切れず雄叫びを揚げる、

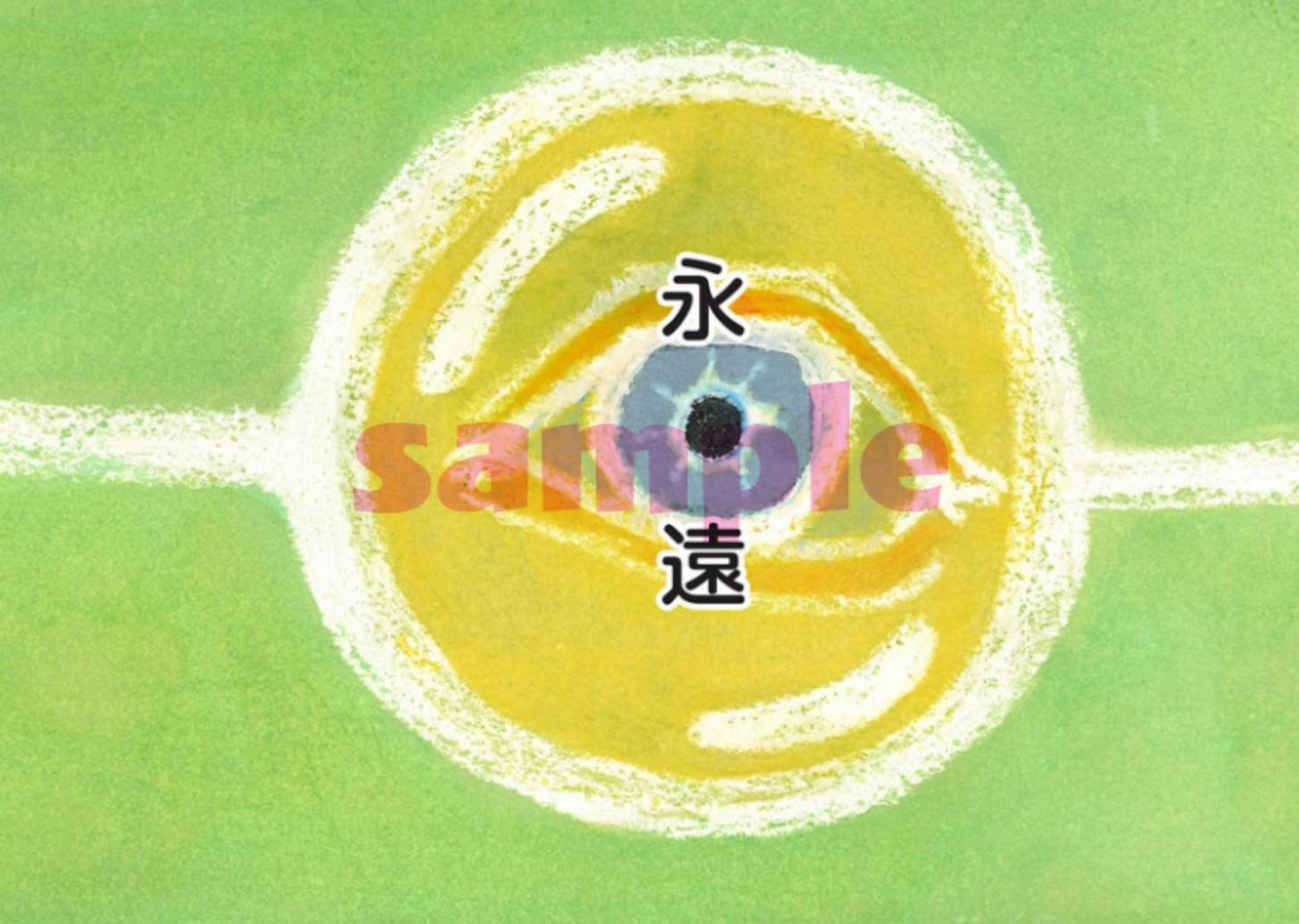
至福のプラグ達。

エンジンは産声を上げ、世界は動き出した。

sample

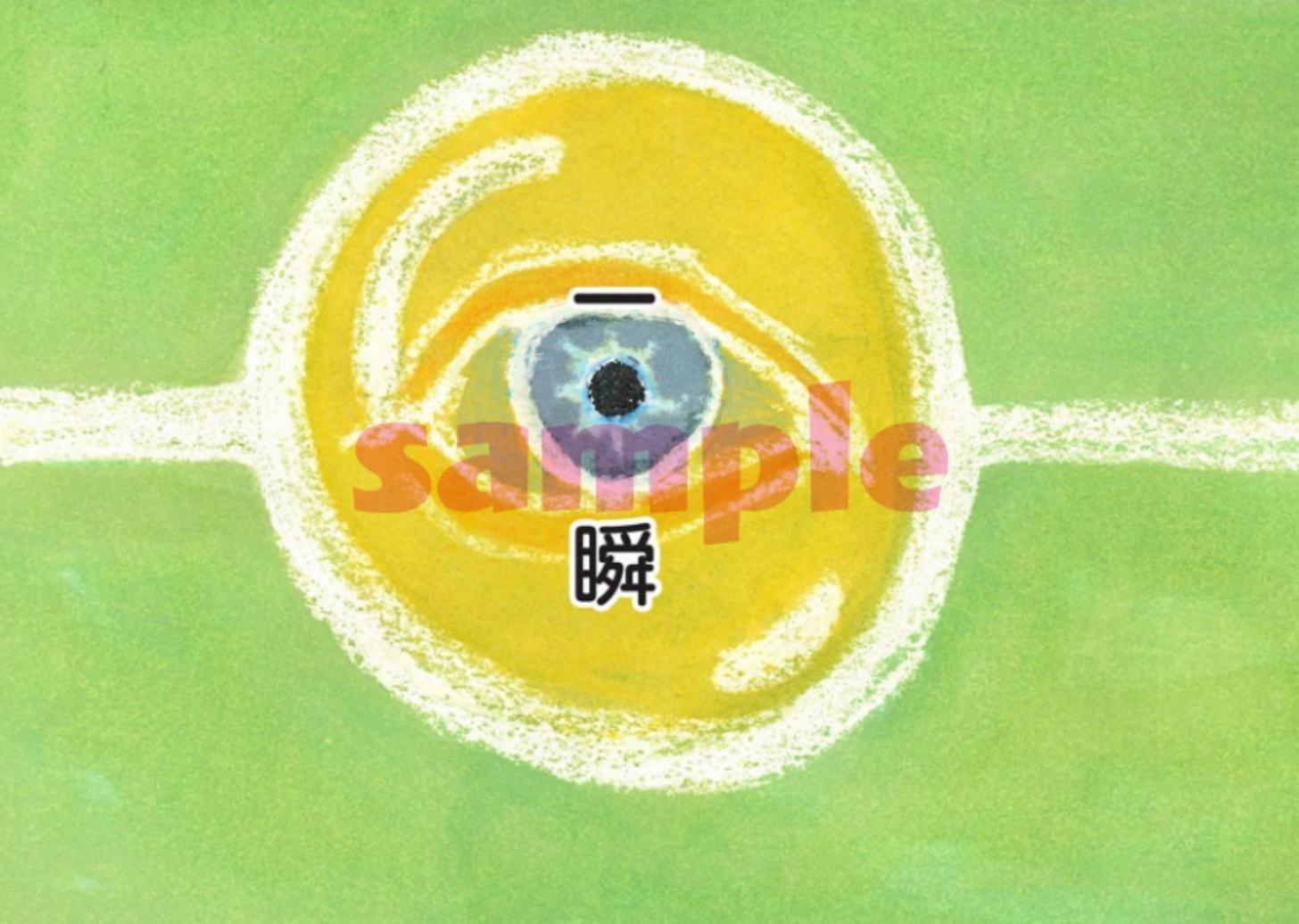
The background is a watercolor illustration featuring four stylized flowers arranged in a cross pattern. Each flower has a central pink or red core surrounded by blue and purple petals. The background is a mix of light blue, white, and yellowish-green washes.

**sample**



永

遠



sample

瞬

火照りだす世界エンジン。<sup>ほて</sup>

Vツインは平和のサインだ。

この灼熱に煮えたぎる錬金炉は、

逃げ惑う暗黒へと得がたい愛の喜びを

ゆき渡らせる。

唸りを上げ身もだえる剥き出しの炉に、

誕生したての星屑達も「自由」に

身を震わせてるよ。

これから現れるだろう存在達は宇宙靈原子の

震動の只中で身もだえながらも

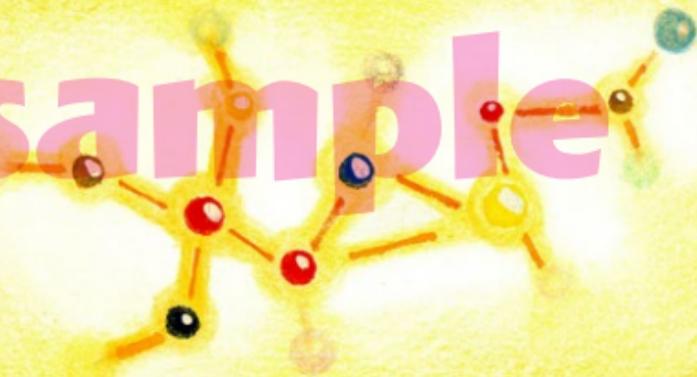
寄り添うように互いの手をしっかりと

握りしめ合っている。

「自」も「他」<sup>た</sup>も無く「ひとつ」になった

こどもたち。

sample



さて、精巧緻密で斬新といふ

冷やかな光輝放つ、世界の極車群。

その張り詰め、研ぎ澄まされた予兆に、

繋がる瞬間を今か今かと待っている。

その姿の何て美しいことか。

バイクーは徐にギヤを「はじめ原初」にぶち込んだ。

交わされる熱烈なピストン運動に、めぐるめく

クランクの旋回舞踏。

注がれる新たな曲面に、待ちに待った蜜月の

時を得て、ノイズを上げながら喜びの振動に

満たされてゆく世界。

やがて、その厳格な囁み合わせに、  
無垢のHロブが温もった鞆血の

オナルを隅々まで行き渡らせる。

彼は、官能と靈感のだけ髪を

振り乱す流銀の愛馬と一体のまま、

じっと揺がる宇宙の果てを見つめる。

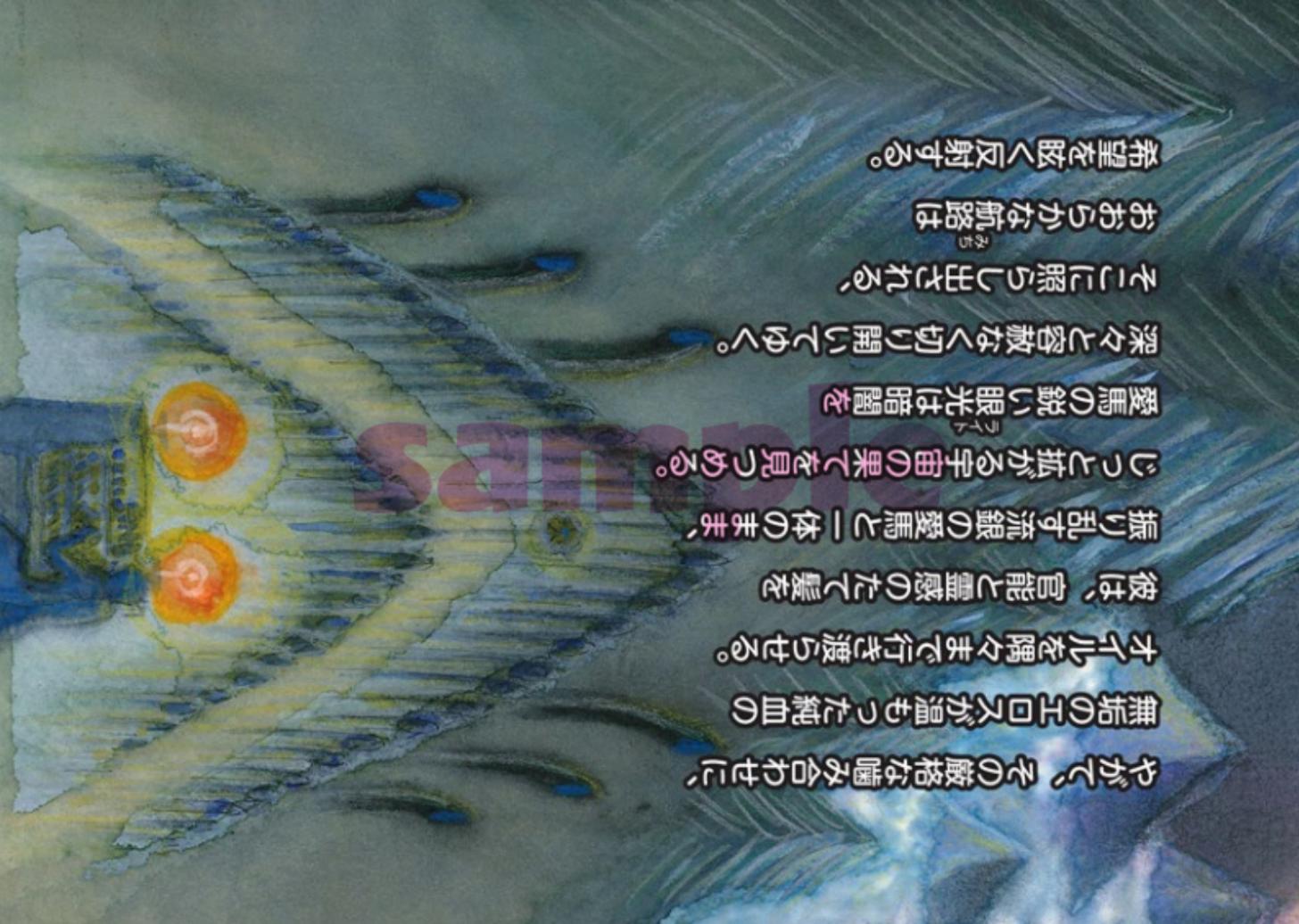
愛馬の鋭い眼光は暗闇を

深々と容赦なく切り開いてゆく。

そこに照らし出される、

おぼろかな航路は

希望を眩へ反射する。



まったく嬉しい事に、二祈禱にひたひたの愛は、  
完璧なアイドリングだ。

バイカーは満足気な笑みを  
浮かべながら、軽く二度、

三度、調子アッセルを煽る。

無数の銀河ざわめく大宇宙の天蓋てんがいは、

そのエキゾーストノートの

野太い角笛にビリビリと共振し、

一斉の歓声と拍手で応えた。

まさに、その中アッセルは開け放たれ

永遠とわいへの旅は始まった。

尻<sup>ケツ</sup>を振りながら開<sup>ひら</sup>きの声を挙げる運命の車輪<sup>ホイール</sup>。

蹴散<sup>く</sup>らされ彗星<sup>せいせい</sup>になっていく星屑<sup>せいせつ</sup>達。

踊<sup>おど</sup>り出せ、と言<sup>い</sup>わんばかりに続々と

打ち鳴<sup>な</sup>らされる凄<sup>せい</sup>まじいエキゾースト

ビートと、リズムの炸裂<sup>さくれつ</sup>は気合<sup>きあ</sup>い十分<sup>じふぶん</sup>だ。

バイカーは、たまらずゴキゲンな笑<sup>わら</sup>いを、

けたたましく上げる。

何<sup>なに</sup>て輝<sup>かがや</sup>く笑<sup>わら</sup>い声<sup>こゑ</sup>だろう。

天から降り注ぐ恵の雨、  
ティアドロップス。

受容のタンクはユラユラと、

揺り籠のように

創造の海原ゆすつてる。

このタンクに欠乏は存在しない。

あらゆる乾きと窪地を潤し、

慈愛の生命水が、

泉の様に湧き出す、母性の乳だ。

海面からは虹色の陽炎舞い上がり、

遥かから唄が聞こえる、

「変容」の息づかいだ。

苦痛を癒し育む、情愛の羊水、

すべての親なる抱擁に、

まどろむ潮流の

揺らぎは永遠の子守唄だ。

何億光年、何兆光年、

今、さつき。

打ち寄せては返す熱愛の波間に

無数の泡粒の

悲しみ・苦しみ・悩み・痛み。

でも、それにも増して存在の輝きは、

喜びに満ち満ちていて限り無い。

バイカーは、打ち砕かれ

踏みにじられてゆく存在のため、

高らかにホーンを鳴らす。

鎮魂・浄化・復活という

厳かな三連ラッパを。

さあ、ギヤを「体験」体験にぶち込め。

スロットル煽れ、もっと、もっと。

彼のライディングは愛の本能。

自由・責任・誠実というタイミングは  
絶妙なバランスでシンクロし、

決して切り離せない。全てはひとつだ。

ああ、走り続ける脈打つ剥き出しの心臓。  
烈風に、見開いた裸眼をさらせ。

バイカーの瞳はいつの時代も乾かない。  
塵が入れば瞬きひとつで十分だ。

そして、その一瞬に世界は変わる。

ギヤは、「進化」へと入れられた。



そーら来たぞ、時代の曲がり角、

運命のブラインド・コーナー。

奢り、恐れる心に付け入る試練の棲み家。

輝き増す程に影が濃いのは照らされ

生き伸びる者の定め。

輝き出さない限り、陰は付きまとう。

勇気の駆動は闇を裂き、創造の車輪は

命の営みを支える。

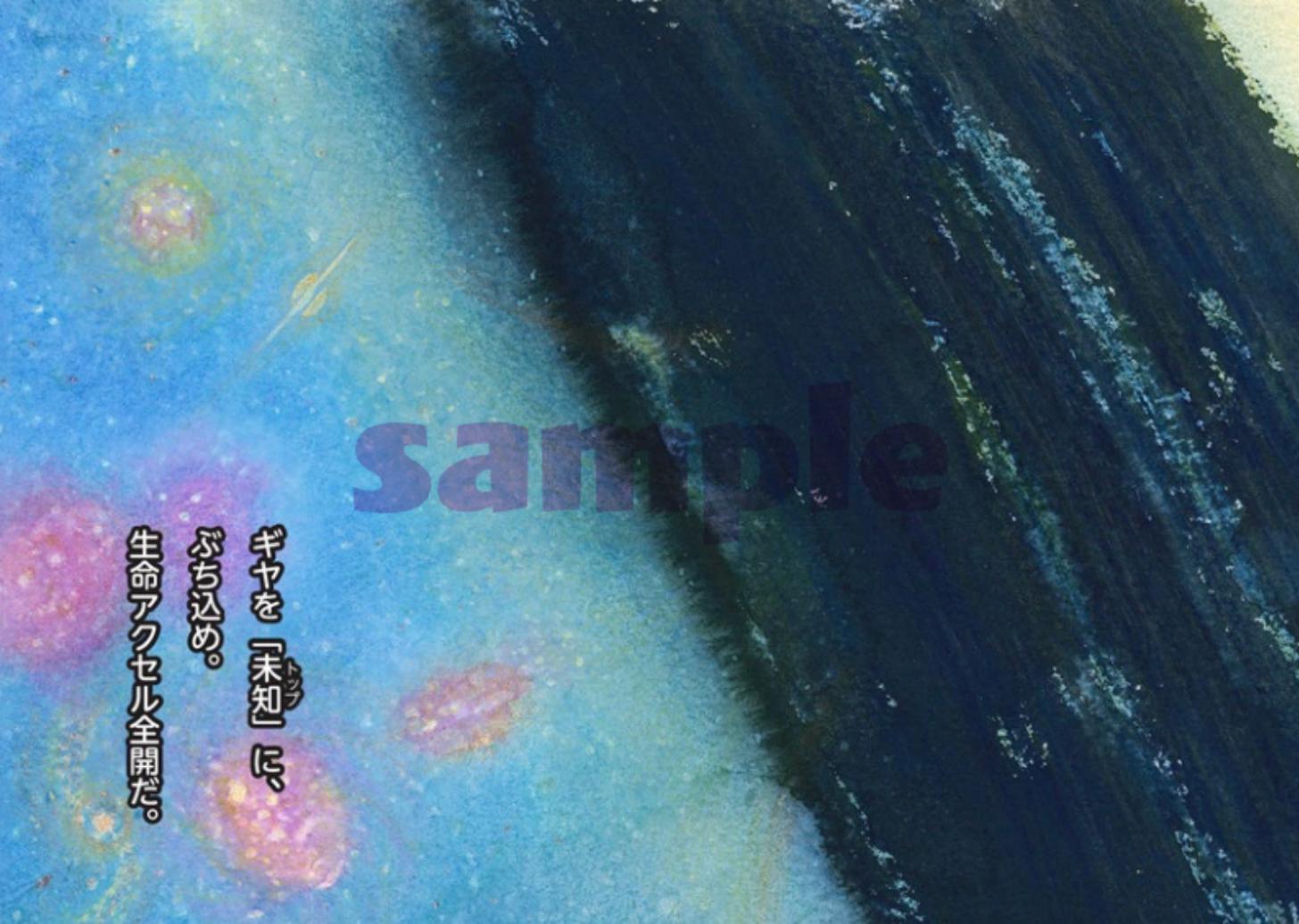
バイカーは恐れない、恐れとは何かを

知っているから。

またも上がる雷の高笑い「すべては愛だ」と

響き渡る勝利の排気音。

さあ、コーナーを抜ける。



sample

ギヤを「未知」に、  
ぶち込め。

生命アクセセル全開だ。



すっ飛んで行く今、  
精神スピードは  
レッド・ゾーン、  
ビリつくボディー。  
バックミラーには  
過ぎ去る時間が  
哀れなくらい必死に、  
しがみついては  
振り払われてく。



バイカーは後ろを  
振り返らない。

ただ、車輪から伝わる

存在の躍動感じ、

未知から吹いて来る風

楽しみながら今また

バイカーの胸は

静かに高鳴りだした。

もはや彼は「新しい世界」へ

突入している。

生命の道筋を印すために。

バイカーが走り去った、

その跡には力強い轍が掘り起こされ、  
芳しい黄金の排気が

壁気楼みたいに立ち昇る。

この塵混じりに放たれる香気は、

靈性に滴ちた森の吐息になり、

世界に日の出を呼ぶ神秘的な

朝もやのヴェールとなって、

土中へ深々と染み込む。

たとえ時代の荒れに荒れ果てた

墓穴だらけの路にでも

愛は注がれる、なおさらに惜しみ無く。

この轍たなの下には、そこかしこ様々な  
種子が蒔かれてる。

彼の燃え立つ稲妻の走りつぎりに、

すっかり魅せられ、咲き乱れる花たち。

恋い焦がれ頬を染め、

かじましい噂話に花咲かす。

いじやあ、もう彼の事で持ち切りだ。

ホラホラ、土の中じやあ、

もぞもぞと新しい種子達が目覚め出す。

この子供達、時代の轍に

どんな実りをもたらさんだろっ。

永遠に輝く偉大な

愛に気づくんだろっか。

騒々しい花たちときたら

恥じらうべにとても純真な

男の子には聞かせられない様な

お喋りに夢中ときてる。

その可憐で御行儀の悪い花たちの

足元には可愛い新芽が

チヨコんと頭覗かせて

聞き耳だてているとも知らないうで。



そーら、またバイカーの、  
つんざく高笑い。

あの雷鳴は、

明日の方角から響いて来る

彼の愛と勇気の轟音なんだ。  
エル



今バイカーは君だ。  
取り残された世界中の  
希望を救い出す存在。

sample

いしだえほん No.0068

# BIKER

2019年3月29日 初版発行

作 かみむら

印刷・製本・発行 石田製本株式会社

〒063-0836 北海道札幌市西区発寒16条14丁目3-31  
TEL 011-676-4520  
<http://i-bb.co.jp/>

©2019 Kamimura / Ishida Bookbinding

※本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。

また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

落丁・乱丁はお取り替えいたしますので、弊社までご連絡ください。

ISBN978-4-909377-67-8

石田製本の直販サイト「いしだえほん」にて、  
シリアスな物からシュールな物まで、楽しい絵本が続々発売中です！  
<http://p-books.jp/ehon/>



9784909377678



1928771012000

ISBN978-4-909377-67-8  
C8771 ¥1200E

定価：本体1,200円+税

